

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日: 令和6年 2月 1日

公表: 令和6年 2月 19日

事業所名

放課後等デイサービス キッズスポー

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	17%	83%	・その日の人数とスペースの都合で運動活動の内容に制限をかけている。 ・療育について工夫しながら取り組んでいる。	・広いスペース確保が必要である。 ・個別対応が可能な個室が足りない。
	2	職員の配置数は適切である	17%	83%		・個別対応等支援の状況においては足りないと感じる時がある。 ・最低限の配置はできているが個別対応や送迎等が重なることで人数が足りない場面が少なからずある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		100%		・身体障害児を受け入れるとしたら、安全に過ごせるスペースはない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	33%	67%		・職員同士で十分な話し合いができていない。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			・送迎時などにその都度話を伺い、改善につなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			・実施している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	67%	33%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			・園内研修に取り組んでいる。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%			・個別面談し家族からの情報を元にスタッフ間で話し合いし常に良くしようと努力している。 ・個人実態票を活用している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%			・個人実態票を活用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			・その都度会議を開き作成している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			・その都度会議を開き作成している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	83%	17%		・状況に応じた設定(療育や支援内容)は常にスタッフ間で話し合い、支援につなげている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%			・子どもの特性に合わせて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			・時間に追われてなかなかできない日もある。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%			・時間に追われてなかなかできない日もある。 情報共有の優先度に応じてだが、共有には努めている。	

17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			・スタッフ個人の主観での支援や記録に偏らないように情報共有に努め、様々な視点を組み合わせるようにしている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%			・課題を明確にするため定期的に話し合いの場を設けている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	83%	17%		・都度、活動内容や支援方法の見直しを行い、改善を図っている。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			・参画できている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	83%			・学校や保護者と情報共有や調整を密に行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	17%	83%		・現在ない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50%	50%		・保育園への訪問し情報共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	67%	33%		・まだ、その実例がないが情報提供できる体制にはある。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	67%	33%		・様々な機関から助言をいただいたり、研修は受講することはあるが具体的な連携はまだ薄い。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	50%	50%		・外出支援で地域住民や他のお子さんとの交流がする場が年々増えてきた。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%			・積極的に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			・連絡帳でのやり取りや送迎時の伝達等で情報共有に努めている。必要に応じて個別面談も行っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		100%		・個別面談を実施している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%			・丁寧な説明を心掛け、行っている。 ・室内に提示している
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			・保護者からの相談は対面での対応が主だが、常に窓口を広くして保護者目線でも話しやすい印象である。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	17%	83%		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			・苦情受付に関しては都度対応検討できる体制にある。苦情あるいはご意見を受けた際の継続的な対応は保護者やお子さんの反応を見る限り評価していただいていると感じている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			・インスタを更新している。 ・定期的な会報はないが行事や必要な連絡事項については発信できている。
	35	個人情報に十分注意している	100%			・特にインスタ投稿に関しては十分に留意している。(保護者同意を含め)
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			・送迎時に利用時の様子をお話する他、連絡帳を用いている。 ・必要に応じて個人面談や対応を行い、実践している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	50%		・地域の方々との交流を計画や開催したい意向だが、コロナ渦にあるため情勢を見ている段階にある。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	50	50	・スタッフで共有しているが、保護者までは周知していない。R6.2月に保護者へ周知する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		・防火管理の指示通り、定期的実践している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		園内研修を取り組んでいる。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%		・現在まで身体拘束するケースはない。 ・保護者には事前に説明し了解を得る体制である。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	50%	50%	・保護者から事前にアレルギーの確認を行い対応しているが指示書はいただいていない。 ・アレルギーがある場合は医師の指示により対応する体制にはある。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		・ヒヤリハットが起きた際、必ず対応策を分析している。	